

風早北部地域ふるさと協議会 防犯防災部
第7回防災活動に関する意見交換会

ごあいさつ

トルコ・シリア大地震では5万人の犠牲者を記録している。農業や酪農・水産業による食料自給率が100%のトルコであるが、地域格差もあって、被災地の建物倒壊の惨さを目の当たりにした。政府や国民全体の防災意識の低さが根底にあると考えれば、柏市も他人ごとではないものとする。市職員や市民の防災意識が必ずしも高くない（千葉県内の他の自治体に比べて）ことでは、明日は我が身と捉え、災害への対応の優先度を再認識していかない限り、柏市民も大規模な自然災害発生時には相当の犠牲を覚悟しなければならないものと認識している。せめて当地域ではそれを極力少なくするため、本日の資料（P3）で欄が真っ白な（何も活動されていない）団体を少しでも減らしていく努力を今後も進めて参りたい。〈以上は、本会議前の配布資料に追加した内容〉

あと二週間で12回目の3月11日を迎えます。前回の兎年のこの日、未曾有の被害を出した東日本大震災では、私ども柏市の住民も、電車が動かない、計画停電に備えなければならない、そして放射性雨での土壌汚染被害対策など、しばらくの間は辛い日々を過ごさなければならない経験をしました。津波が押し寄せる光景がライブで流れ、人びとがいとも簡単に命を落としていく様、震災や津波以上に、震災関連の死者もかなりの数で毎年発生していました。

12年も経ちますと、のど元の熱さは何処へ？で、柏市は大きな自然災害もなく時間は過ぎ、確実に防災意識の停滞が市内に蔓延し、行政もそれに追随するような姿にしか目に映らないことに危機感を抱いております。

去る2月2日、私どもの会長と私（防犯防災部長）の二人で、柏市危機管理部長との会見をし、予め私どもが用意した太田柏市長宛て要望事項（5項目）を中心に2時間の協議を行いました。本日はその結果概要も議事の中でご案内させていただきます。

いよいよ今年度もまとめの季節にはいっており、来年度の事業計画も本日提案をさせていただき、来月の役員会でこれを提示し、5月の当会定期総会でご了承を受ける算段です。防災に関しては、年度末のこの時期に一年間の活動の総括を兼ねて、当近隣センター内で、防災をテーマにした展示会を開催、

より多くの市民の皆さんに防災活動に触れていただきたく、何卒各団体の次期防災担当役員をお誘いの上、ご来場をお待ち申し上げます。

本日は、所定の議題に加え、ゲストとして高柳地区から防災ご担当の方をお招きし、ご自身の経験である阪神淡路大震災の体験談をお話しいたきますので、真摯な聴講をお願いします。

限られた時間ですが、今年度最後の防災会議ですので、来期への引継ぎを意識されたご参加を宜しくお願い申し上げます。

風早北部地域ふるさと協議会
防犯防災部長 古山博之